



本日は、お忙しい中、総会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

9:00より開会いたします。今しばらくお待ちください。

- 本日はビデオおよびマイク機能については、登壇予定者様ならびに関係者様のみ解除可能としております。
- 登壇予定者様ならびに関係者様で権限が付与されていない方おられましたら、チャット機能にて事務局宛にお知らせください。
- 本日は議事進行の関係から、総会中は内容に関するご質問等を受付いたしません。ご質問のあられる方は、事務局宛にメールにてご連絡ください。ご理解およびご了承のほど、よろしくお願い申し上げます。



# Beyond 5G 推進コンソーシアム

## 第4回 総会

Beyond 5G Promotion Consortium

4th General Assembly

日時：令和5年3月13日（金） 9:00～10:35

場所：ウェブ開催

- 開会
- コンソーシアムの活動、活動計画についての報告
- 関連活動についての発表
- 意気込みについての発表
- 閉会



- 挨拶 五神 真様 (Beyond 5G推進コンソーシアム会長)
- 挨拶 松本 剛明様 (総務大臣)

- 開会
- コンソーシアムの活動、活動計画についての報告
- 関連活動についての発表
- 意気込みについての発表
- 閉会



# 企画・戦略委員会 活動報告



- 発表 森川 博之様 (企画・戦略委員会委員長・東京大学)

- 2022年度は、企画・戦略委員会として第5回会合を開催。

会合	開催日	議事内容
第5回会合	2023年1月13日（月）	<ul style="list-style-type: none"><li>• ミリ波に関する最新動向（クアルコムジャパン様）</li><li>• 白書分科会活動状況報告（白書分科会リーダ陣）</li><li>• WAKUWAKU2030活動状況報告（ONBOARD様）</li></ul>





- 発表 中村 武宏様 (白書分科会 主査・NTTドコモ)



# 国際委員会 活動報告




- 発表 中尾 彰宏様 (国際委員会委員長・東京大学)
- 発表 Beyond 5G推進コンソーシアム事務局

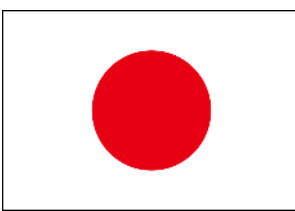
- 2022年度は、国際委員会として会合を6度開催。

会合	開催日	議事内容
第7回会合	2022年6月6日（月）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 技術分科会活動方針報告（自律性WG、高周波WG）</li></ul>
第8回会合	2022年6月29日（水）	<ul style="list-style-type: none"><li>• MOU締結先の外国関係機関におけるBeyond 5Gの取組等(6G-IA, Next G Alliance)</li></ul>
第9回会合	2022年7月27日（水）	<ul style="list-style-type: none"><li>• Beyond5G推進に向けた日本企業と外国企業との連携について（エリクソン・ジャパン）</li></ul>
第10回会合	2022年9月9日（金）	<ul style="list-style-type: none"><li>• 技術分科会活動方針報告（セキュリティWG、時空間同期WG）</li><li>• Beyond5G推進に向けた日本企業と外国企業との連携について（ノキアソリューションズ&amp;ネットワークス）</li></ul>
第11回会合	2022年12月19日(月)	<ul style="list-style-type: none"><li>• ITU 次期電気通信標準化局長就任に向けた抱負や所属会員の皆様へのメッセージ（尾上氏）</li><li>• IOWN のユースケースと現状、万博へのご展望（NTT 川島氏）</li></ul>
第12回会合	2022年2月24日（金）	<ul style="list-style-type: none"><li>• Beyond5G諸外国動向調査</li><li>• MWC出展企業報告</li><li>• 技術分科会活動状況報告</li></ul>

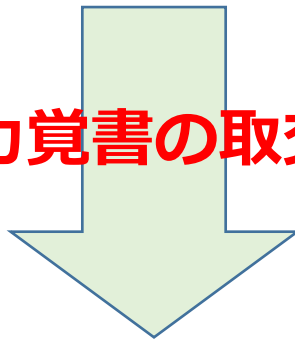
- Beyond 5G推進コンソーシアムは、Beyond 5Gに関して相互に連携する協力覚書を今年度は3組織と署名。
- 今後、各組織とは、Beyond 5Gに関する双方の活動を一層強力に推進する。



**Beyond 5G  
Promotion Consortium**  
Beyond 5G推進コンソーシアム  
(日本)




**協力覚書の取交し**



**6G-IA**  
(欧州)



**Next G Alliance**  
(米国)



**PAWR(ノースイースタン大学)**  
(米国)



**PAWR Project Office**

## 協力事項

### 1. 情報や発表の交換

(Exchange of Information and Publications)

### 2. 人的交流

(Personnel Exchange)

### 3. 共同研究開発プロジェクト

(Collaborative Research and Development Projects)

- Beyond 5G推進に向けた産学官の取組の加速化と国際連携の強化に焦点を当て、我が国及び欧米等の産学官の主要なプレーヤーからのBeyond 5G推進に向けた取組紹介や、Beyond 5G実現に向けて鍵となる技術の動向やその研究開発の推進について国際的な議論を行った。

## 開催概要

【日時】2022年10月24日（月）13:30～17:30、25日（火）9:30～17:10  
 【開催方法】現地開催（ホテルニューオータニ東京 鶴の間）及びオンライン開催  
 【主催】総務省、Beyond 5G推進コンソーシアム  
 【参加者】現地：約200名（延べ数）、オンライン：約700名（大使館関係者を含む）



五神会長



竹内総務審議官



中尾国際委員長

## 主なアジェンダ（Day1）

- **1日目は、Beyond 5Gに向けた我が国の取組状況を中心に発信。**
  - 特別講演として、NTT尾上氏が登壇し、これまでの5G標準化までに取り組んで来た経験等を踏まえつつ、今後の移動通信の発展の可能性や、次期ITU-T局長として、先進国と途上国とのギャップを埋めていくべく取り組んでいくことの重要性等について指摘。
  - 竹内総務審議官から、Beyond 5G推進戦略以降の政府としての取組や、情通審中間答申等について紹介した上、具体的な取組が必要である旨指摘。
  - 産業界からのリレー報告として、日本電信電話株式会社、株式会社NTTドコモ、KDDI株式会社、ソフトバンク株式会社、楽天モバイル株式会社から説明。
  - Beyond 5G推進コンソーシアムより、国際委員会及び白書分科会の活動状況について報告。

## 主なアジェンダ（Day2）

- **2日目は、午前は、Beyond 5Gに向けた主要企業・研究機関等における研究開発動向等について発表。**
    - 徳田NICT理事長、NICT萩本氏から、Beyond 5Gの最新の研究開発動向やNICTにおける研究開発（基金やテストベットの活用等）の取組について紹介。
    - Beyond 5Gの技術動向を中心に、6つのテーマ（Open RAN、周波数、セキュリティ、Beyond 5G先進技術①②、Beyond 5G実現に向けた課題）に沿って分科会を開催。国内外の民間企業研究者や大学研究者等から各テーマについて発表。
  - **2日目午後は、Beyond 5Gに向けた各国政府高官や主要企業・研究機関等を交えたセッションを中心に開催。**
    - 政府セッションでは、米・英・独・EU・星から、それぞれのBeyond 5Gに向けた取組が共有されるとともに、我が国を含めた国際的な連携に向けた期待感が表明。
    - パネルディスカッションでは、Beyond 5G実現に向けた取組や今後の展望について、関係者が意見交換。ネットワークのオープン化などを含めた様々な研究分野において国際連携を進めるべく、今から対応可能な事をより具体的に実行していくことが早期のBeyond 5G実現に向けて必要であることを確認。
- （参加者：中尾国際委員長（モデレータ）、6G IA、PAWR、6G Flagship（ワザハ）、豪通信省次官、印通信省局長（ワザハ））



# 国際連携・協力関係の拡充

- 当コンソーシアムの国際的プレゼンス向上のため、海外における交流機会を通じて海外関連機関との今後の協力関係構築を推進。
  - 欧州政策研究所（CEPS）とEU日本政府代表部共催の講演会に出席し、Beyond 5Gの特徴、当コンソーシアムの目的、白書、OpenRAN等の各取組に加え、国際協力プロジェクトの実施の必要性について説明。
  - 日米IEDでは、米国の官庁および企業との合同セッションにて、欧州と同様に当コンソーシアムの紹介を行い、本分野における産官学の国際的かつより密接な連携の必要性について言及。



Panel Discussion with  
DG Connect,  
European Commission,  
Brussels  
2023/2/14



Internet Economy Dialogue,  
Washington D.C.,  
2023/3/7



理化学研究所  
欧州支部・  
在ベルギー日本大使館  
共催講演会、  
ブリュッセル  
2023/2/15



Discussion  
between NextG,  
Beyond5GPC,  
MIC, and NICT,  
Washington D.C.  
2023/3/7

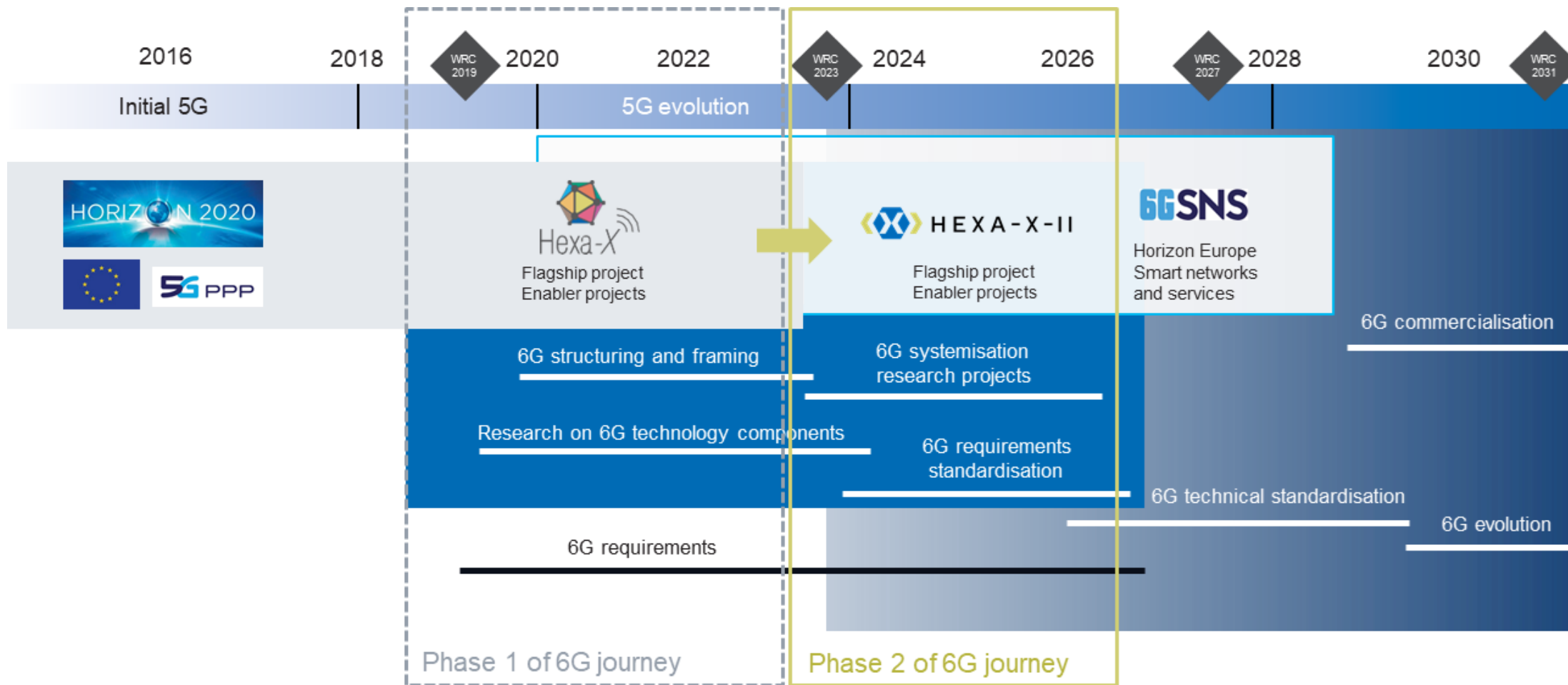


- 国際委員会では、諸外国・地域におけるBeyond5G/6Gに係る取り組みの状況について継続的な調査を実施。
- 各国では準備フェーズを終え、検討および研究内容の具体化など、出口戦略フェーズに突入しており、わが国も後れを取らないよう、活動を精力的に推進していくことが求められる。

調査内容・結果	
調査対象国・地域	<ul style="list-style-type: none"><li>• 5ヶ国・地域（欧州、フィンランド、ドイツ、英国、中国）</li></ul>
全体的な動向および傾向	<ul style="list-style-type: none"><li>• 昨年度の同調査と比べて、各国の取組みがより実ビジネスを意識した研究とサービスのマッチングなど、出口戦略の検討に舵を切り始めている</li><li>• 各組織における参画企業・組織数も飛躍的に増えている</li><li>• 白書などの対外的な発表活動を進めつつも、国外企業も巻き込んだワークショップやイベントの開催など、より強力な国際的プレゼンスの獲得にリソースを振り分けている</li></ul>



- 欧州の6G推進機関であるHexa-Xは2023年6月に終了し、2023年1月より開始しているHEXA-X-IIへの移行を予定。
- 参画企業数も増え、6Gのユースケースや社会への貢献を定義し、標準化活動を深化させていく見込み。



## 6G Radio

「mmWave Communication」  
28GHzビームフォーミング技術



「THz Sensing」  
THz波を使った高精度位置検出技術



## 6G Edge

「3D Scanner」  
デジタル・ツインを意識した  
高精度3次元データ生成・転送技術



## 6G Optical Communication

「Light Based Location Awareness」  
可視光通信を使った  
室内での人の位置検出技術



「Visible Light Communication」  
無線補完を想定した可視光高速通信技術



## 6G Vertical

「LTA Drone」  
超軽量(Lighter Than Air)ドローンの  
6Gネットワーク環境での制御とデータ転送技術



「eHealth」  
遠隔診断・治療向け総合的患者情報  
収集・転送技術



- 最先端テストベッド・ネットワークは現在4サイト運営されており、それぞれの研究テーマに基づく実証実験が進められている。
- 実証結果の一部は、独立した取り組みとして別予算のもと活動が進められている。



## POWDER

PLATFORM STATUS: GENERALLY AVAILABLE



## COSMOS

PLATFORM STATUS: GENERALLY AVAILABLE



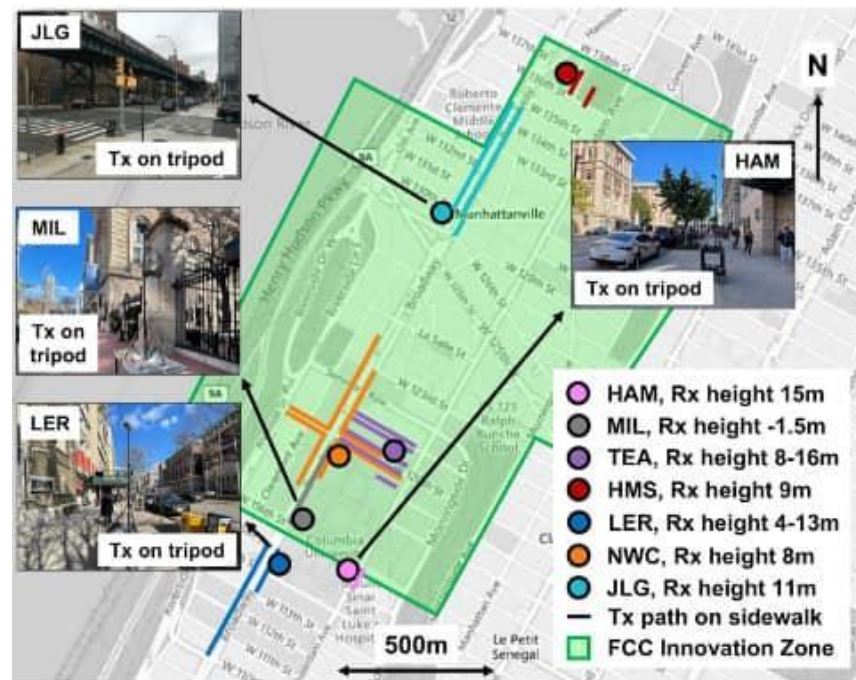
## AERPAW

PLATFORM STATUS: GENERALLY AVAILABLE



## ARA

PLATFORM STATUS: UNDER CONSTRUCTION



COSMOSは自動運転自動車を前提とした交差点交通制御システムをメインテーマとしており、mmWave等関連技術について、NY州内の限定区域内での実証実験等も行っている

- 5つのWGでは以下のように活動を進めた。
- 今後成果物の情報発信などを行い、日本の技術アピールを推進していくことを予定している。

分科会名称	下期活動方針
スケーラビリティWG	月次定例を22年6月より開催し、ランドスケープマップの更新およびスケーラビリティ分野未活用の業種業界の方々との勉強会を実施した。
自律性WG	自律性関連活動を多く実施している一般社団法人情報通信委員会と連携し、当コンソーシアム会員の皆様に同会開催のイベントや発表レポートの周知を実施できる体制を構築した。
高周波WG	Beyond5G研究開発促進事業にて研究委託を実施している高周波関連研究17件の成果発表会を23年2月に実施し、ランドスケープマップ作成に向けた基礎情報を収集した。
セキュリティWG	量子暗号にフォーカスし、ランドスケープマップ作成に向けた技術の棚卸とBeyond 5Gの主要構成要素（初回は超高速低遅延）との連動・融合について各方面の有識者との議論を23年2月に実施した。
時空間同期WG	時空間同期関連技術の研究者と技術を活用する事業者で集まり、技術の活用方向性について議論を23年3月に実施した。



# 活動詳細 技術分科会（スケーラビリティWG）

22年6月より以下の企業と月次定例を実施し、ランドスケープマップ策定および政府機関との意見交換を実施した。成果物は後日、当コンソーシアムHPにて公開し、関係者間で調整の上、対外的な発信活動を進めていく。

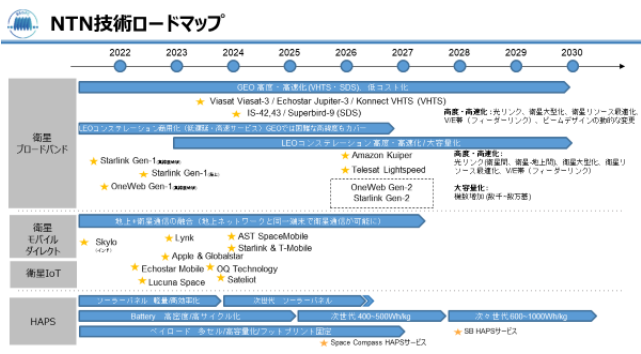
参加企業  
(名称順、敬称略)

エリクソン・ジャパン、ソフトバンク、VIAVI Solutions、華為技術日本、楽天モバイル

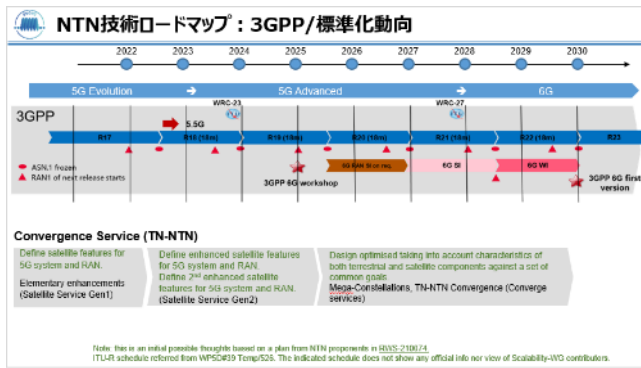
成果物  
(ランドスケープマップ)

意見交換

## 技術情報



## 3GPP/標準化動向



## 活用事例

災害医療現場と病院間の連携

活用技術	LEO		
ユースケース	災害医療現場と病院との連絡手段		
ユースケース 概要	緊急災害医療時にアンテナを取り付け、災害現場と病院間の連絡にL5/L6のアクセスを実現		
既存ソリューション	なし		
KPI	Throughput 数十Mbps	Latency -	Coverage 都市部/郊外
課題	実用現場での運用行為や病院との連絡手段に限らず、MIS（院内業務情報連携システム）へのアクセスを可能にする事により、災害現場の稼働状況を把握しながら、適切な治療・搬送が可能となる。また、健康情報（検診、遠隔検診等）を一元管理可能なプラットフォームの連携をする事で、該当患者が抱える疾病や健康課題などを迅速な治療と提供も可能となる。 連絡手段としての通信とデータが繋がる手段としての通信の両側面を持ち合わせた、NTN推進の先進的な取組として期待される。		
想定メリット/効果	1. 治療方法や搬送先決定までの時間短縮 2. 通信機器を利用した現場対応のスムーズな情報連携		

- 政府の防災関連組織に、スケーラビリティWGで収集した活用事例をご紹介し、今後のNTN技術の活用可能性について議論を行った。
- 議論の中では、各自治体の保有ネットワーク等における防災時の対応等の観点でのご意見を頂いた。

## イベント概要

イベント	セキュリティWGイベント
日時	2023年2月10日 (金) 10:00～12:00
テーマ	暗号技術について ユースケース創発について
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>KDDI総合研究所             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 三宅 優様</li> <li>- 福島 和英様</li> <li>- 仲野 有登様</li> </ul> </li> <li>NICT             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 中尾 康二様</li> <li>- 加藤 豪様</li> </ul> </li> <li>東芝             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 米良 恵介様</li> <li>- 兪 工様</li> <li>- 山浦 隆博様</li> </ul> </li> <li>横浜国立大学大学院             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 四方 順司様</li> </ul> </li> </ul>

## イベント詳細

議論テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「暗号分野」「ユースケース創発」を大まかなテーマに、下記の委員より発表を頂いた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- NICT - 中尾康二様：セキュリティ・B5G分野の国際標準化について</li> <li>- KDDI総合研究所 - 福島和英様：Rocca-Sの標準化について</li> <li>- 東芝 - 米良恵介様：東芝社等の量子暗号の研究結果について</li> <li>- NICT - 加藤豪様：量子セキュアクラウドの社会実装に向けた活動について</li> </ul> </li> </ul>
議論内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記の発表を受け、ディスカッションを実施した。ディスカッションは、議論テーマに沿った形で行われた             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 国際標準化について、ITU-TのStudy Group 17でPQCのコンセプト・使い方をまとめ、3GPPにリエゾンで送り、3GPPでスペックを書く際に日本の意向を入れる方法や、共通鍵暗号は、ISOのワーキング 2 で国内のコンセンサスを取った上で提案する方法があるが、<u>Beyond 5Gの環境・コンセプトがまとまっていない中で、白書等のコンセプトペーパーが発表されれば、普及度が上がるとこのような活動もしやすくなるのではないか。</u></li> <li>- セキュリティWGへの期待としては、Rocca-Sは高いスループットを実現できる暗号技術であるため、例えば<u>Beyond 5Gのユースケースとして、100Gbpsを越えるユースケースとの連携があると良い。</u></li> <li>- 標準化に関しては、ETSIでQKDネットワーク、QKD装置の標準化に関与しており、PoC等を通して知見や活動を積み上げている。NICT等にも協力してもらいつつ、活動をしているが、<u>量子暗号は社会実装までに時間も資金も必要で、研究開発においても世界最高速度および十分なセキュリティも実現していることから十分な環境ではあるが、今後も様々な技術の発展の余地があるため、長い視点で研究・PoCをしていく必要がある。</u></li> </ul> </li> </ul>
今後について	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションを経て、今後、B5Gの分野で各委員の研究分野において連携を行い、来年度以降も本WG等を通して、海外に打ち出していく日本発の技術・企画創発に向けて協力することを確認した</li> <li>また、WGに対して、下記のような期待が寄せられた             <ul style="list-style-type: none"> <li>- <u>日本の技術を対外的に広めることが目的であると考えているが、どの程度までの活動を行うべきか？</u> (例：アピールできるセキュリティ技術のリスト作成、プロモートのための国内関係者の連携構築や諸外国との連携模索、技術を利用可能なユースケースの紹介、国際標準化のサポート、国際展開への協力等)</li> <li>- <u>総務省、経産省等が実施しているプロジェクトとの連携を行えるか？</u> (例：B5G/6Gを直接意識しているセキュリティ関連の研究はそれほど多くなく、主に、国が予算を出しているものになるかと思われるため、関係省庁からB5G/6Gに関連しそうなセキュリティ関連のプロジェクトのリストを頂き、セキュリティWGのトピックにしたい)</li> </ul> </li> </ul>

## 開催概要

## 開催内容

<b>名称</b>	テラヘルツ無線のB5G/6Gに向けての取り組み その2	<b>実施方式</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総出席者196名、同時ビューの最大数140名（ともに事務局・発表者を除く）のもと、上述のとおり17名の発表者によって、Beyond 5G研究開発促進事業の研究成果について、発表および質疑応答が行われた。</li> </ul>
<b>日時</b>	2023年2月27日（月） 10:00～17:15		
<b>テーマ</b>	高周波（テラヘルツ波）に関する研究開発状況の共有		
<b>参加者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Beyond 5G推進コンソーシアム 国際委員会 高周波WG</li> <li>NICT テラヘルツ研究センター</li> <li>テラヘルツシステム応用推進協議会</li> <li>Beyond 5G研究開発促進事業 受託研究機関</li> </ul>	<b>発表テーマ一覧</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テラヘルツ帯を用いたBeyond 5G超高速大容量通信を実現する無線通信技術の研究開発（早稲田大学等）</li> <li>2. Beyond 5G超大容量無線通信を支えるテラヘルツ帯のチャネルモデル及びアプリケーションの研究開発（シャープ株式会社等）</li> <li>3. 屋内CP空間連携に向けた先端半導体－メタサーフェス融合技術の実証実験（名古屋工業大学等）</li> <li>4. テラヘルツ帯を用いたBeyond 5G超高速大容量通信を実現する無線通信技術の研究開発（富士通株式会社等）</li> <li>5. Beyond 5Gに向けたテラヘルツ帯を活用した端末拡張型無線通信システム実現のための研究開発（株式会社KDDI総合研究所等）</li> <li>6. Beyond 5G超大容量無線ネットワークのための電波・光融合無線通信システムの研究開発（三重大学等）</li> <li>7. テラヘルツ帯チャネルサウンディング及び時空間チャネルモデリング技術の開発（新潟大学等）</li> <li>8. GaN系真空マイクロフォトリソ技術による無線通信用ハイパワーテラヘルツ波発生に関する研究開発（九州大学等）</li> <li>9. 低コスト・高品質なミリ波・テラヘルツ帯へのBeyond 5G対応高周波数移行技術の研究開発（大阪大学等）</li> <li>10. 単原子長ゲートによる低環境負荷物質から成る高出力THz帯増幅器の創出（東北大学等）</li> <li>11. Beyond 5Gに向けた高速ビームステアリング技術の研究開発（立命館大学等）</li> <li>12. サイバネティック・フロントエンドを無線化する追従型テラヘルツリンクの研究開発（東京大学等）</li> <li>13. サイバーフィジカルインフラに向けた高信頼シームレスアクセスネットワークに関する研究開発（三菱電機株式会社等）</li> <li>14. 超低雑音信号発生技術に基づく300GHz帯多値無線通信に関する研究開発（大阪大学等）</li> <li>15. Beyond 5G超高速・超大容量無線通信システムのためのヘテロジニアス光電子融合技術の研究開発（東北大学等）</li> <li>16. 共鳴トンネルダイオードを用いたテラヘルツ無線通信と映像伝送に関する研究開発（大阪大学等）</li> <li>17. 欧州との連携による300GHzテラヘルツネットワークの研究開発（岐阜大学等）</li> </ol>
		<b>今後について</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における高周波に関する研究開発は、ミリ波時代からグローバルで見ても先行しており、現在テラヘルツ関連の研究開発が非常に活発に行われている。本シンポジウムでは、テラヘルツシステム応用推進協議会およびBeyond 5G研究開発促進事業に関係する方々による発表に留まったが、それ以外にも多くの研究開発が行われている。今後は、巻き込む対象を拡大し、輪を広げていくことによって、研究開発の機会を活発化させ、成果を最大化していく取り組みを実施していくことが重要である。</li> <li>また、国際連携についても、検討していく必要がある。NICTが主体となり、2023年4月にドイツとの連携による研究開発ワークショップが予定されているが、テラヘルツ研究は米国等でも盛んであり、積極的な連携が必要ではないか。</li> </ul>

## イベント概要

イベント	時空間同期WG 有識者会合
日時	2023年3月6日（月） 17:30～19:30
テーマ	時空間同期技術に関する 各団体の取組状況の共有
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ソニー             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 米山 裕介様</li> </ul> </li> <li>・ ヤマハ             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 本山 悟様</li> <li>- 劔持 秀紀様</li> <li>- 永野 裕規様</li> </ul> </li> <li>・ NICT             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 花土 ゆう子様</li> <li>- 井戸 哲也様</li> <li>- 原 基揚様</li> <li>- 矢野 健一郎様</li> <li>- 市川 隆一様</li> </ul> </li> </ul>

## イベント詳細

発表テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「時空間同期」を大まかなテーマに、各団体の研究内容について、下記の委員より発表を頂いた。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- NICT - 井戸 哲也様：超低遅延・精密測位・GNSS耐災害性を支える高精度・分散化時刻基準技術</li> <li>- ソニー - 米山 裕介様：長距離通信でIoTの可能性を広げるソニーのLPWA “ELTRES”</li> <li>- ヤマハ - 劔持 秀紀様：音響分野に関するヤマハのお取組/ 5G Local 5Gに関するヤマハのお取組</li> </ul> </li> </ul>
発表内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の発表において、言及された各技術を記載する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- NICT - 原 基揚様：原子時計のチップ化に関する研究開発動向</li> <li>- NICT - 井戸 哲也様：Wi-Wi（Wireless 2Way Interferometry）に関するモジュールの研究開発動向</li> <li>- NICT - 矢野 健一郎様：クラスタクロックシステムに関する研究開発動向</li> <li>- ソニー - 米山 裕介様：ELTRESに関する研究開発動向</li> <li>- ヤマハ - 劔持 秀紀様：AI音源技術（VOCALOID）</li> </ul> </li> </ul>
議論内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記の発表を受け、ディスカッションが行われた。詳細な内容は下記となる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- Wi-Wiシステムの開発の際には、物理層の開発については技適を取得し、無線チップはメーカ製品を使用している。ユースケースは携帯端末を想定、<b>端末に載せるチップ単価は有線部分は製品化されており、廉価で提供可能か</b></li> <li>- ELTRESの時刻同期にGNSS以外の技術を活用出来るとありがたい。その際は、実装費用がポイントとなりつつ、<b>NICT様が保有している技術等が助けになるかもしれない</b></li> <li>- ELTRESは屋外利用を想定しており、屋内利用のニーズも聞くが、そのようなニーズに対して顧客側でどの程度リソースを割いて実装を行うかがカギ。<b>研究開発からビジネスの分野に移ると、コストの重要度が高くなったと感じた</b></li> <li>- ボーカロイドの類似サービスとして、Syncroomという多拠点を繋いで演奏を同期させるサービスを提供している。P2Pで接続を行っており、顧客の端末に通信の性能がある程度依存することから、5拠点程度の利用を推奨している。</li> <li>- 例えば、野球場では、オーロラビジョンに移る映像と、実際に打者が打球を飛ばす際の音声が聞こえるまでには、タイムラグがある。そのような環境下でも、観客は野球を楽しんでいるように、映像と音の差分を自然と楽しむことが出来る。逆に、<b>映像と音声をリアルタイムで繋ぐようなサービスがあると、新しい楽しみ方を提供出来るのではないか。</b></li> </ul> </li> </ul>
今後の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ディスカッションを経て、今後、各委員が時空間同期に関する研究開発を進めるべく、研究分野において連携し、今後も日本発の技術・ユースケース創発に向けて協力することを確認した</li> </ul>



- Beyond5G/6Gにおける我が国のプレゼンス向上のため、世界最大級のモバイル技術国際見本市「MWC Barcelona 2023」へ出展した。
- B5G推進コンソーシアム会員企業（日本無線株式会社、森田テック株式会社、日本航空電子工業株式会社）による現地出展により、Beyond5G/6Gの取組み状況について訴求した。

## MWC Barcelona 2023開催概要

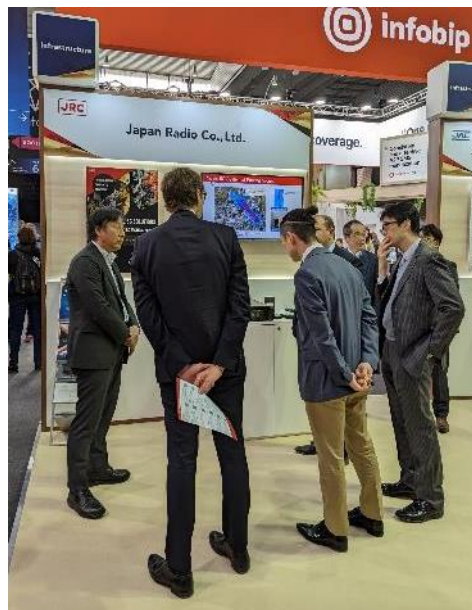
展示会名	MWC Barcelona 2023
開催日時	2023年2月27日（月）～3月2日（木）
会場	Fira Barcelona Gran Via（Spain）
主催者	GSMA

## 展示ブースの様子

森田テック株式会社



日本無線株式会社



日本航空電子工業株式会社



## 今年度活動概要

- ・ 企画・戦略委員会と国際委員会が共同で所掌する本分科会における国内外の幅広い関係者からの情報提供
- ・ 推進のための議論を重ね、議論の内容を踏まえた報告書を作成

## 報告書発表会

- ◆ 日時：3月17日(金)19:00～20:00（オンライン開催）
- ◆ 議事次第：
  - （1）開会のご挨拶
  - （2）報告書要旨：日本国内向けに報告書の内容を説明
  - （3）各社の今後の0-RAN推進に向けた意気込み発表
  - （4）閉会のお言葉
- ◆ その他
  - ・ 接続先情報はコンソ会員向けにメールで配信
  - ・ 日本語のみでの開催

- 当コンソーシアムでは、次年度に向け、以下の方針のもと活動を進める。

組織体	項目
コンソーシアム総会	<ul style="list-style-type: none"><li>各戦略に基づいて実施される具体的な取組や研究開発等に関する最新の国際動向・情報の産学官での共有</li><li>Beyond 5Gの早期実現に向けた取組を推進するための検討</li><li>Beyond 5Gに関する我が国の取組状況の国際的な発信</li></ul>
企画・戦略委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>Beyond 5Gに向けた総合的な戦略の検討</li><li>ITU向け白書・Beyond 5Gのあるべき社会像の継続的な更新</li><li>情報通信企業とユーザー企業をつなぎビジネス化を推進する活動</li><li>B5Gのマーケティング・ブランディングに係る活動</li></ul>
国際委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>Beyond 5Gに係る我が国の国際的な取組・活動方針の検討</li><li>諸外国のBeyond 5G関連の取組に関する情報収集</li><li>諸外国の団体・組織とのMOU（活動の連携）に向けた具体的検討ならびにIAB活動の拡充</li><li>国際カンファレンスの開催や国内外の展示会への出展に向けた検討</li><li>白書を中心とした海外との連携促進、今後のビジョンの策定</li><li>技術分科会を中心とした国際的な研究開発の動向調査や我が国の研究開発の取組の発信</li><li>今後のBeyond 5Gの推進に向けたテストベッドの国際連携に向けた調整</li><li>上記活動に際した総務省、国内関連機関との連携強化</li></ul>

- 開会
- コンソーシアムの活動、活動計画についての報告
- 関連活動についての発表
- 意気込みについての発表
- 閉会



- 発表 増子 喬紀様

(総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 新世代移動通信システム推進室 室長)



- 発表 徳田 英幸様  
(国立研究開発法人情報通信研究機構 理事長)

- 開会
- コンソーシアムの活動、活動計画についての報告
- 関連活動についての発表
- 意気込みについての発表
- 閉会

- 発表 森川 博之様  
(企画・戦略委員会 委員長・東京大学)
- 発表 中尾 彰宏様  
(国際委員会 委員長・東京大学)
- 発表 澤田 純様  
(日本電信電話株式会社 代表取締役会長)
- 発表 吉田 進様  
(第5世代モバイル推進フォーラム 会長・京都大学)





- 発表 井伊 基之様  
(株式会社NTTドコモ 代表取締役社長) ※ビデオご登壇
- 発表 高橋 誠様  
(KDDI株式会社 代表取締役社長) ※ビデオご登壇
- 発表 宮川 潤一様  
(ソフトバンク株式会社 代表取締役 社長執行役員兼CEO) ※ビデオご登壇
- 発表 矢澤 俊介様  
(楽天モバイル株式会社 代表取締役社長) ※ビデオご登壇



- 挨拶 遠藤 信博様  
(一般社団法人日本経済団体連合会 副会長)

# 閉会

ご参加ありがとうございました。